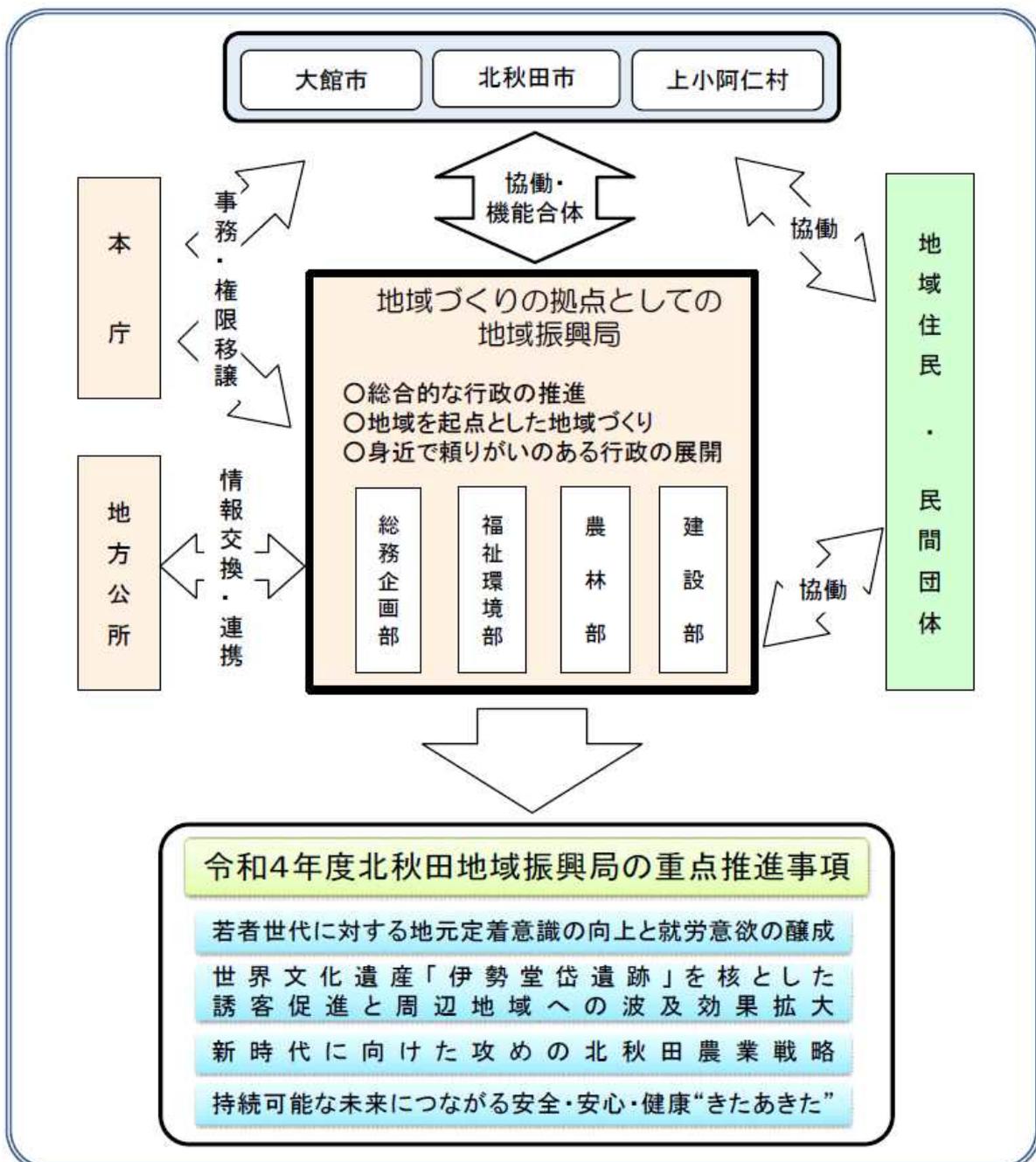


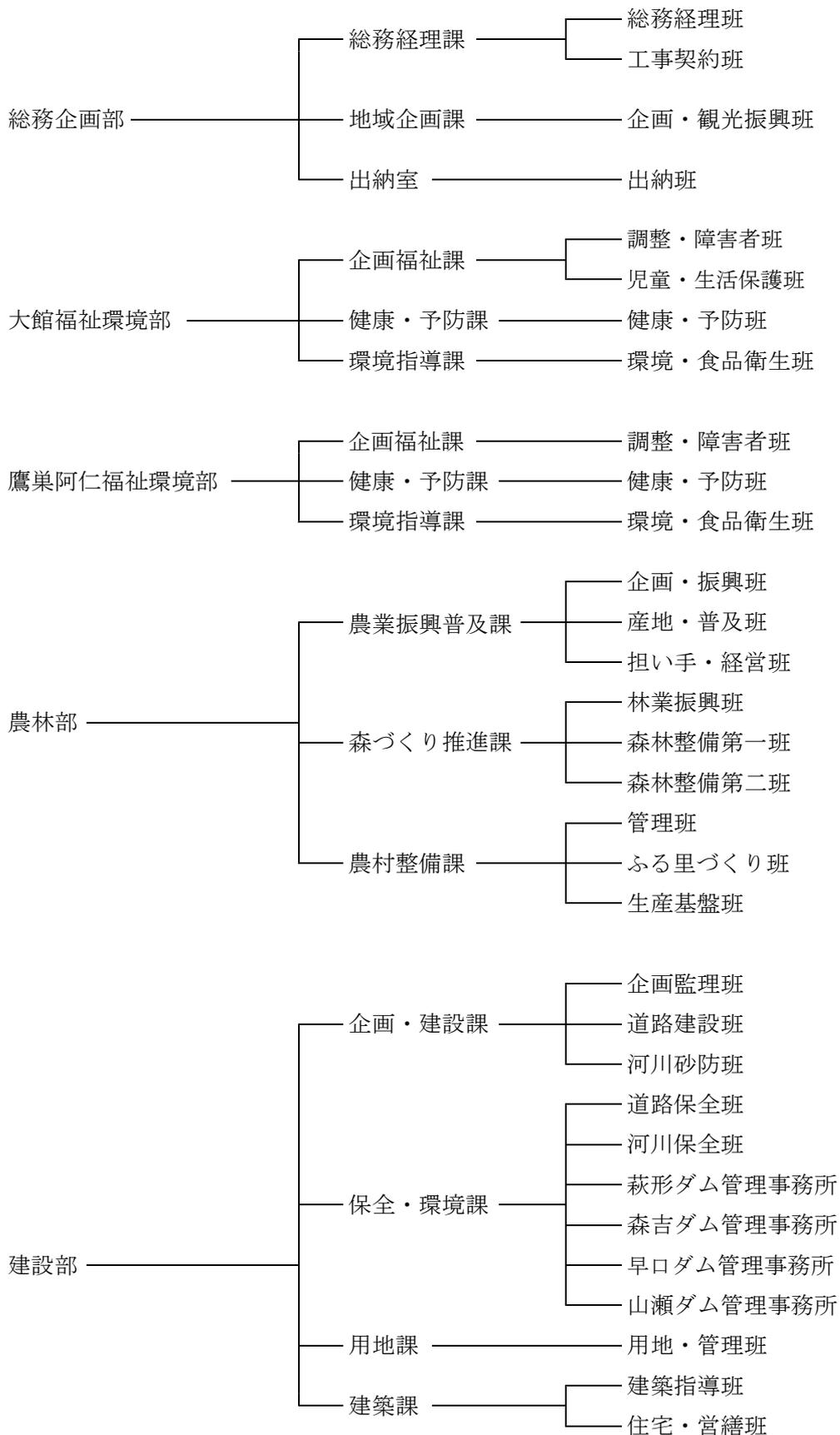
## I はじめに

北秋田地域振興局では、今年度からスタートした「～大変革の時代～新秋田元気創造プラン」の着実な展開を図るため、重点施策推進方針を策定し、これに基づく施策・事業を推進することにより、一層活力ある魅力的な地域づくりを進めている。

振興局の組織は、総務企画部、福祉環境部、農林部及び建設部からなり、職員総数は会計年度任用職員を含め、253人（R4.4.1現在）となっている。また、地域における総合的な行政を推進する観点から、地域振興局に属していない地方公所とも密接な情報交換等により連携を図っている。



## II 組織体制



〔地方公所 等〕

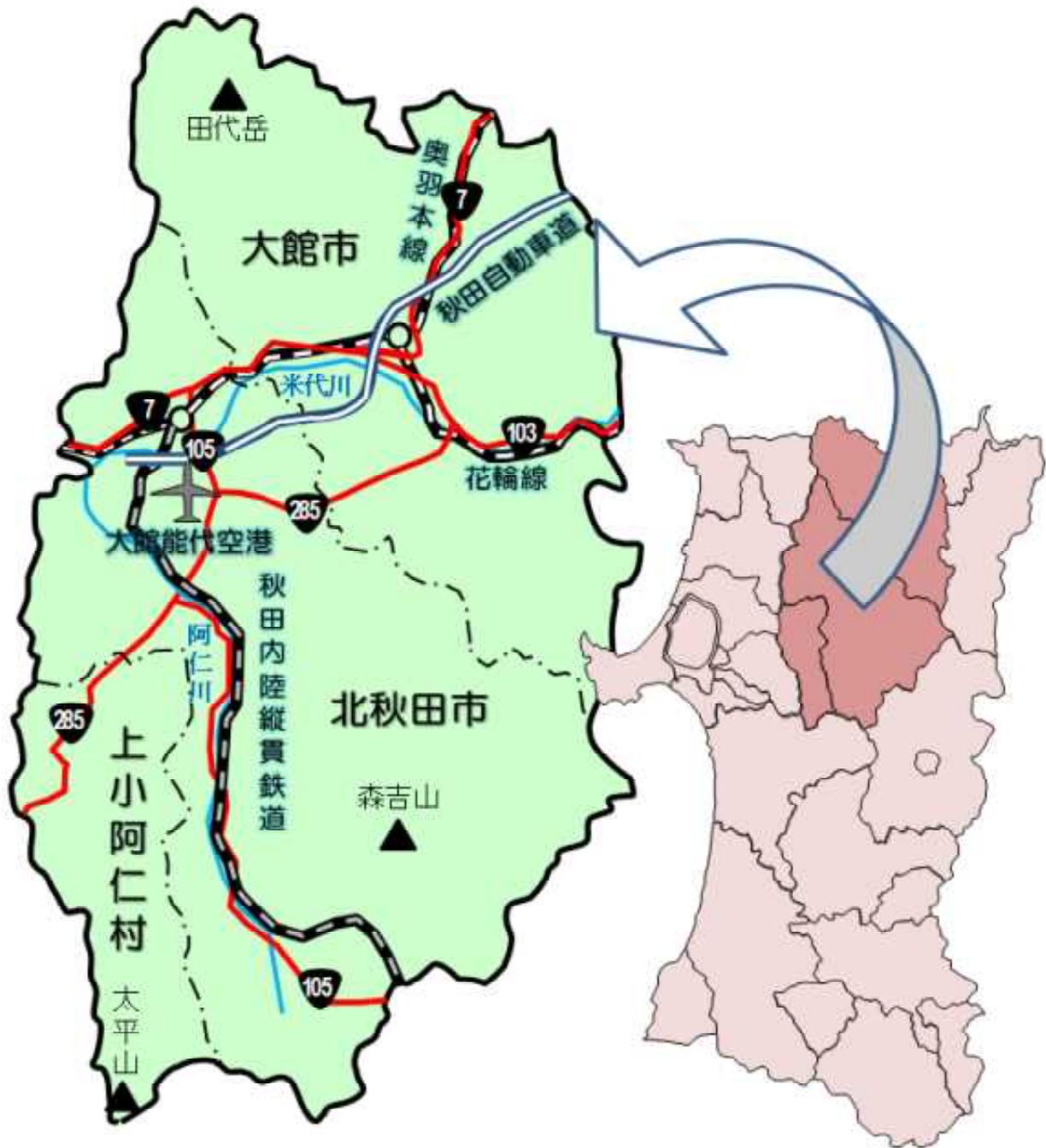
- 総合県税事務所北秋田支所
- 交通政策課秋田内陸線支援班（※現地設置班）
- 北児童相談所
- 生活センター北部相談班（※現地設置班）
- 北部家畜保健衛生所
- 鷹巣技術専門校
- 大館発電事務所
- 大館能代空港管理事務所
- 北教育事務所

### Ⅲ 職員数

(R4. 4. 1現在)

	定 数 内 職 員			定 数 外 職 員				合 計
	正 職 員	専 門 員 (フル)	小 計	専 門 員 (短時間)	非 常 勤 (会計)	非 常 勤 (特別職)	小 計	
地 域 振 興 局 長	1		1					1
総 務 企 画 部	30	2	32	2	9	0	11	43
大 館 福 祉 環 境 部	27	0	27	0	17	2	19	46
鷹 巣 阿 仁 福 祉 環 境 部	15	0	15	0	10	0	10	25
農 林 部	46	1	47	0	6	0	6	53
建 設 部	65	0	65	1	19	0	20	85
合 計	184	3	186	3	61	2	66	253

#### IV 管内略図

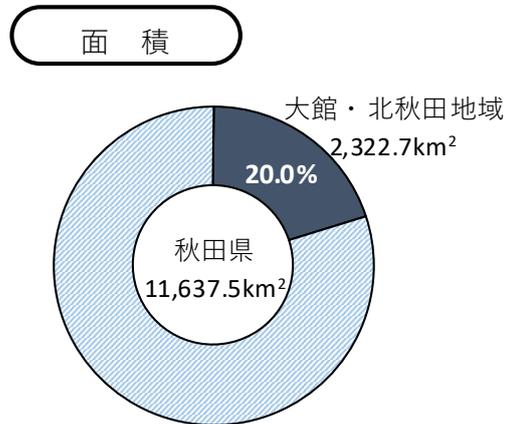


## V 管内概況

### 1 地勢

大館・北秋田地域は、県の内陸北部に位置する2市1村（大館市、北秋田市、上小阿仁村）からなり、総面積は2,322.7km<sup>2</sup>と県全土の約20.0%を占めている。

地形は、中央部を東西に貫流する米代川（管内85.4km）とその支流沿いに平地がひらけ、大館・鷹巣盆地と阿仁部に大別される。地域全体としては山地が多く、北部には白神山地に続く田代岳、中央には森吉山、南部には太平山の3つの県立自然公園を有している。



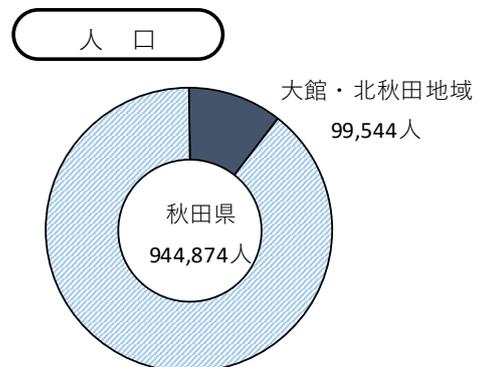
（出典 令和4年版秋田県勢要覧）

### 2 人口

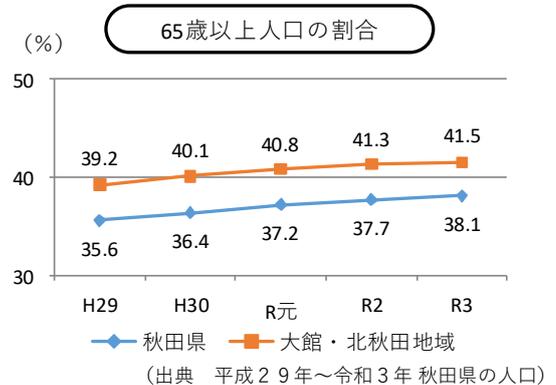
管内の人口は、昭和35年の176,653人（国勢調査）をピークに減少を続け、令和3年10月1日現在で99,544人（県全体の10.5%）となっている。

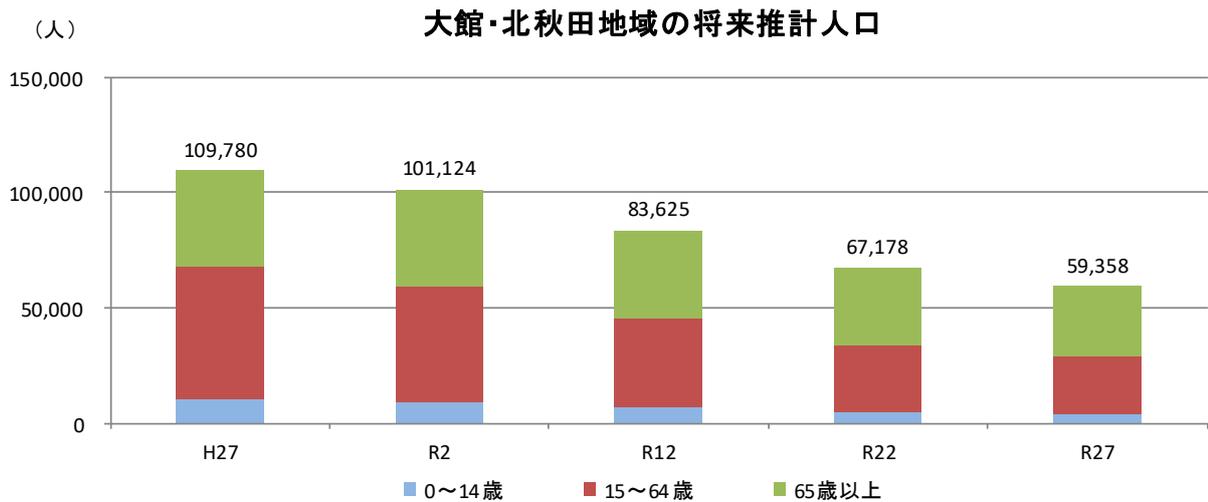
また、管内の65歳以上人口の割合は41.5%で、県平均の38.1%を3.4ポイント上回っており、県の中でも高齢化が進行している。

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成30年3月発表）では、管内の人口はそのまま減少を続け、令和27年には59,358人にまで減少するとされている。また、この間、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳）の割合は減少する一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加し、令和27年には管内の人口の約51.4%を占める見込みとなっている。



（出典 令和3年 秋田県の人口  
—秋田県年齢別人口流動調査報告書—）





(出典 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計))

これに対し、各市村では、平成27年度に人口ビジョンを策定し、その中で様々な施策により人口減少を緩和し、次の人口維持を目指すこととしている。

○各市村が目指す将来人口

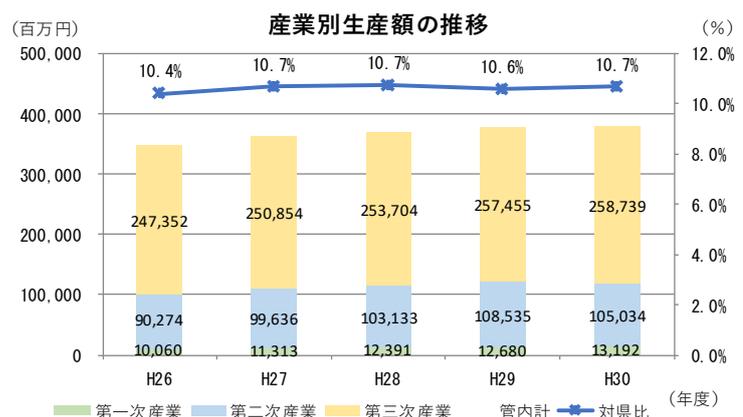
	令和22年(2040年)	令和42年(2060年)	
管内合計	76,790人 [67,178人]	58,340人	
大館市	56,043人 [47,674人]	45,498人	H27.12 大館市人口ビジョン
北秋田市	19,388人 [18,420人]	11,944人	H27.10 北秋田市人口ビジョン
上小阿仁村	1,359人 [1,084人]	898人	H28.3 上小阿仁村人口ビジョン

[ ] 内は社人研推計

### 3 産業

平成30年度における管内の総生産額は約3,752億円で、前年度と比べ約13億円の減少となっており、全県の総生産額(3兆5,205億円)の約10.7%を占めている。

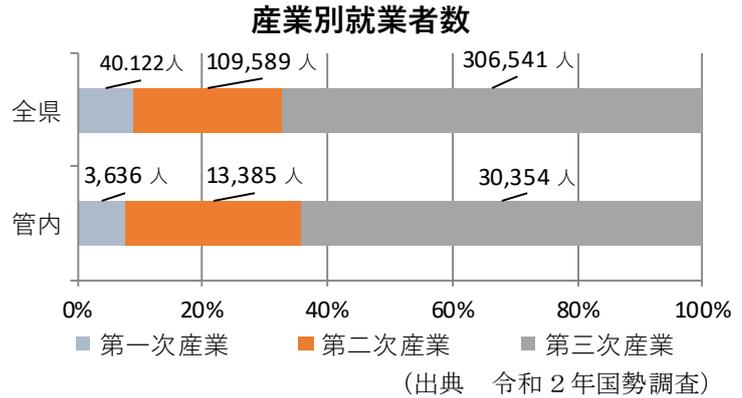
産業別では、第一次産業が約132億円(構成比率3.5%)、第二次産業が約1,050億円(同27.9%)、第三次産業が約2,587億円(同68.6%)となっており、県平均に比べ、第二次産業の比率が高く、第三次産業の比率が低い産業構造となっている。



(出典 平成30年度秋田県市町村民経済計算)

※第一次～第三次産業の値は、輸入品に課される税・関税等の控除前のもの。そのため、これらの計は管内の総生産額と一致しない。

産業別就業者数の割合は、第一次産業7.7%（県平均8.8%）、第二次産業28.2%（同24.0%）、第三次産業64.1%（同67.2%）と、県平均に比べ、やや第二次産業の割合が高くなっている。



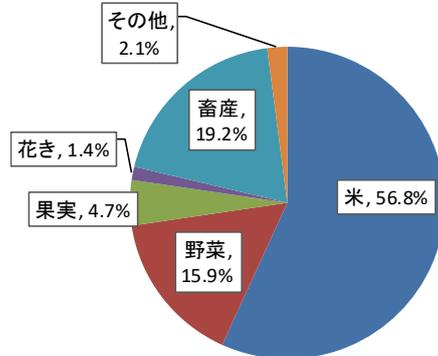
### (1) 農林業

農業については、比内地鶏や山の芋、とんぶり等の特産品の産地であるほか、アスパラガス、きゅうり、ねぎなどの産地としても知られている。さらに、近年はえだまめやにんにくの生産が急速に拡大しており、新時代を勝ち抜く攻めのトップブランド産地の形成が進んでいる。

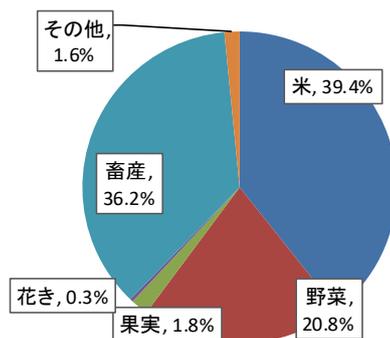
管内の耕地面積は14,293ha（うち田12,232ha、畑2,061ha）、総農家戸数は3,505戸で、うち販売農家数は2,204(62.9%)、自給的農家数は1,301(37.1%)となっている。

また、令和2年の管内の農業産出額は218.2億円で全県の約11.6%を占めており、その内訳を県平均と比べると、大規模養豚や比内地鶏等の畜産の割合が高く、近年は野菜の割合が高くなってきている。

**秋田県農業産出額割合(%)**



**北秋田管内農業産出額割合(%)**



○令和2年農業産出額

単位：億円

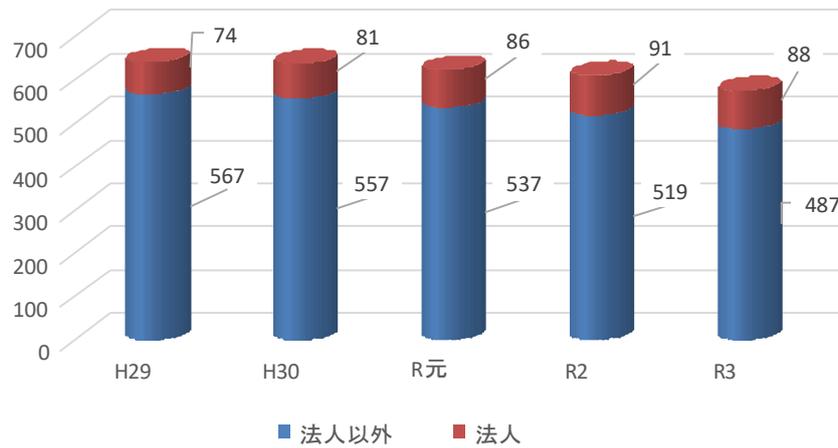
	米	野菜	果実	花き	畜産	その他	合計
大館市	44.6	28.8	3.3	0.6	47.1	1.7	126.1
北秋田市	37.8	15.7	0.6	0.1	31.8	1.6	87.6
上小阿仁村	3.5	0.8	0	0	0.1	0.1	4.5
管内計	85.9	45.3	3.9	0.7	79.0	3.4	218.2
全 県	1,078	301	89	26	365	39	1,898

(出典 農林水産省資料 令和2年農業産出額)

近年は、認定農業者や集落型農業法人等の担い手を中心とした生産構造への転換を図るとともに、機械導入によるえだまめの大規模産地化など、農業経営の複合化、多角化を進めている。

さらに、経営基盤の強化を図るため、県外からの移住就農を含め、次代をリードする多様な人材の確保と競争力の高い担い手の育成に取り組んでいる。

### 北秋田管内認定農業者数



出典 県調査(令和4年3月現在)

### 農業の主要指標

項目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘要
農 家 数	総農家数	戸	3,505	37,116	9.4	2020年農林業センサス
	販売農家数	戸	2,204	27,780	7.9	
	自給的農家数	戸	1,301	9,336	13.9	
	農業従事世帯員 <sup>※1</sup>	人	3,311	42,144	7.9	
	認定農業者	戸	575	8,678	6.6	県調査 (R4.3月末現在)
	集落営農組織	組織	90	706	12.7	
	集落型農業法人	組織	38	373	10.2	
	任意組織	組織	52	333	15.6	
耕 地	耕地面積	ha	14,293	146,400	9.8	作物統計調査 (2021年)
	田	ha	12,232	128,400	9.5	
	畑	ha	2,071	17,900	11.6	

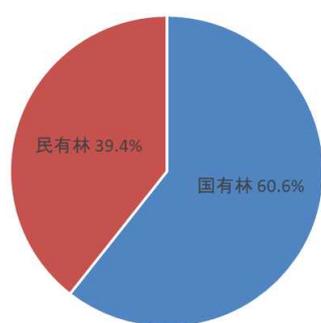
※1) 年間60日以上農業に従事した世帯員、役員・構成員(経営主を含む)

林業・木材産業については、民有林のスギ人工林資源が成熟期に入ってきていることから、スギ原木の低コスト安定生産を図るため、施業の集約化や林内路網整備の推進のほか、生産性の高い作業システムの普及・定着を進めるための高性能林業機械等の導入に取り組んでいる。

管内の森林面積は、194,633haで総面積232,270haの83.8%を占め、そのうち国有林が117,897ha(60.6%)、民有林が76,735ha(39.4%)となっている。

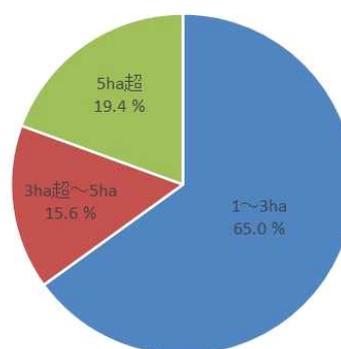
山林を所有する林家数(1ha以上)は5,408戸で、総世帯数の13.1%を占め、所有規模別林家数は1～3ha未満が3,517戸(65.0%)、5ha未満では4,357戸(80.6%)と、小規模零細な所有構造となっている。

管内国民有森林割合(%)



(出典 令和2年度版 秋田県林業統計)

所有規模別林家割合(%)



(出典 令和2年度版 秋田県林業統計)

## ○林業の主要指標

項目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘要	
森林資源	林野率	%	83.8	72.1	—	令和2年度版 秋田県林業統計	
	森林面積	千ha	195	839	23.2		
	民有林	森林面積	千ha	77	448		17.1
		人工林率	%	58.8	57.4		—
		森林蓄積	千m <sup>3</sup>	19,819	120,920		16.4
森林生産	林内道路密度	m/ha	16.6	17.1	—		
	林道整備密度	m/ha	8.1	7.1	—		
	間伐面積	ha	655	6,314	10.4		
	原木市場売上数量	千m <sup>3</sup>	67	134	50.0		
その他	林家数(1ha以上)	戸	5,408	27,697	19.5		

## (2) 工業

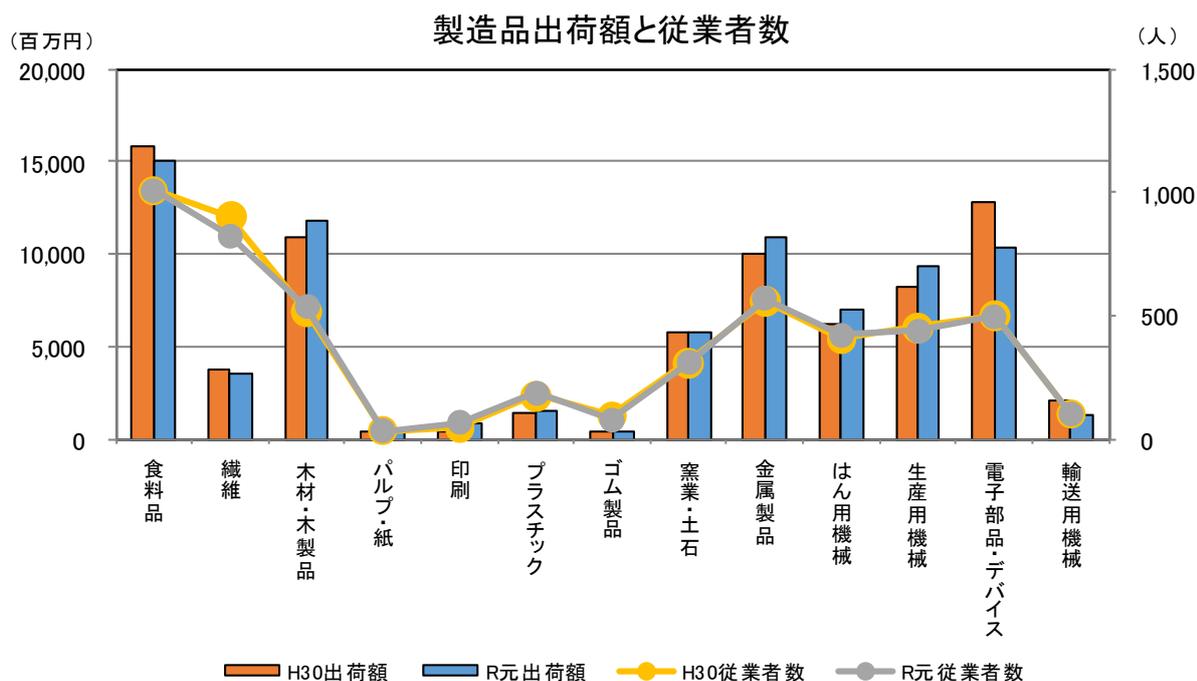
工業については、令和元年の製造品出荷額等は1,837億円、従業者数は8,949人、事業所数は216となっている。(2020年 秋田県の工業)

また、日本海沿岸東北自動車道の大館北ICから小坂JCT間が開通し、東北縦貫自動車道に直結したことにより大館市積内産業団地や大館工業団地への企業立地が進んでいる。

ウィズ・アフターコロナ時代の生活様式として「ワーケーション」への注目が高まっており、北秋田市では、「阿仁比立内がっこステーション」の開設や「打当温泉マタギの湯」のリニューアルなどワーケーション拠点の整備が進んでいるほか、官民6団体の連携による、同市ならではの「マタギ文化」を活用したワーケーション推進の取組が始動した。

### ○北秋田地域の誘致企業（R2年度は該当なし）

年度	企業名	市村	操業年月	業種
H30	(株)あしたのチーム サテライトオフィス大館ランド	大館市	H30年8月	情報サービス業
R元	第一日昭工業(株)	大館市	R2年6月	生産用機械器具製造業
	(株)エレックス極東 鷹巣再生可能 エネルギー研修センター	北秋田市	R元年7月	エンジニアリング業
R3	(株)オオダテソーイング ファクトリー	大館市	R3年11月	製造業
	東洋紡株式会社	大館市	R6年6月	製造業



(出典 2019、2020年秋田県の工業)

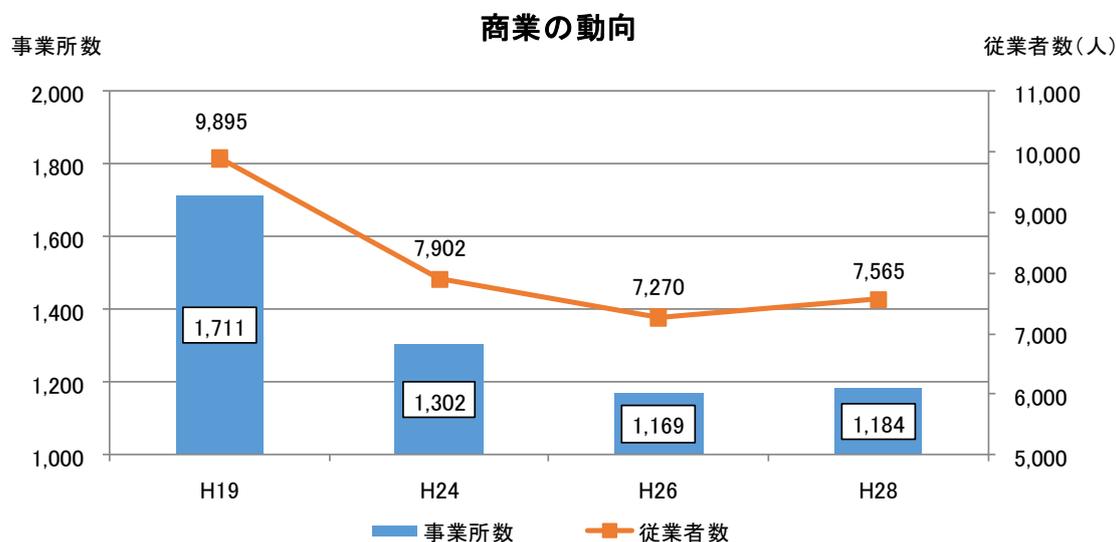
## ○北秋田地域のワーケーション・サテライトオフィス一覧

施設名	市村	特徴
五色湖ロッジ	大館市	湖畔にあるロッジ。滝などが点在し、岩瀬川溪流の散策や田代岳の登山が楽しめる。時期によっては、五色湖でのカヌー体験も可能。
ベニヤマ自然パーク	大館市	パーク内に6人までのグループが利用できるコテージがあり、春はお花見、夏はキャンプ、秋は紅葉と、四季を楽しむことができる。また、徒歩5分の場所に、大人150円で入浴できる天然温泉施設がある。
MARUWWA	大館市	大館駅前で秋田犬の里からも近く、交通の利便性が良い。ビジネスから観光まで、さまざまな拠点として活用可能。起業創業支援や移住サポートなども行っているため、行政から民間まで多くの業種との交流がある。
MARUWWAニコメ	大館市	大館市の中心部で、市役所にも近い大町商店街にあり、授乳室やキッズスペースを完備しているため、子どもと一緒に働ける。また、物販スペースやキッチンもあり、子育て相談や子どもと参加できる教室も随時開催している。
MARUWWA三角	大館市	大館市大町商店街内の車通りの多い交差点の角という好立地。コロナ禍以降身近になりつつあるライブ配信やオンライン講座などを行うことができるスタジオとして特化している。また、レンタルキッチンやイベント利用など様々な利用の仕方が可能である。
東光雪沢テクノパーク	大館市	大館市と十和田湖をつなぐ県道2号（樹海ライン）沿いにある旧雪沢小学校を活用したレンタルオフィス。現在は、ドローン事業の拠点として、農業用ドローン、防災用ドローンなどの開発・製造・教習施設として活用している。5km圏内には、温泉施設があり、十和田八幡平国立公園へのアクセスも便利。
community station KITAKITA	北秋田市	古い倉庫ををリノベーションした小さなレンタルオフィス。オフィスは2階で、1階には施設を運営する設計事務所とカフェスペース、さらに、ワークショップやセミナー、展示会などが開催可能なコミュニティスペースがある。JR鷹ノ巣駅、内陸線鷹巣駅の目の前にあり、空港には車で10分、大型スーパーに行けば高速バス乗り場があったりと便利な場所。
TANOC	北秋田市	JR鷹ノ巣駅、内陸線鷹巣駅から徒歩1分、空港まで車で10分のTANOCビル内のレンタルオフィス。1階では、カフェが営業されており、鷹巣駅前のアーケード街には、デザイン事務所、写真スタジオ、スポーツウェアやアパレルショップなどが並んでいる。

阿仁比立内 がっこステーション	北秋田市	内陸線比立内駅舎内にある利用料無料のコワーキングスペース。オシャレなカフェのような雰囲気、フリードリンクや高速フリーWi-Fiを備えており、仕事や休憩に利用することができる。
秘境の宿 打当温泉マタギの湯	北秋田市	内陸線阿仁マタギ駅から車で3分の天然温泉付き宿泊施設。併設されている「マタギ資料館」では、マタギ文化に関する多数の展示資料を閲覧することができる。一部の客室にはインターネット配線や65インチの大型テレビが備えられ、ワーケーション目的の長期滞在も可能。
上小阿仁村集住型宿泊交流拠点施設コアニティー	上小阿仁村	村内外の交流活動の促進と地域コミュニティの創造を目的とした集住型宿泊交流拠点施設。起業者向けレンタルルームやリモートワーク可能な会議室があり、自然に囲まれた中山間地域ならではの空間でゆったりとした時間の流れに身を置きながら、集中して仕事に打ち込める環境にある。

### (3) 商業

商業については、人口の減少等により、事業所数、従業者数のいずれについても、減少傾向にある。



(出典 平成19、26年秋田県の商業、平成24、28年経済センサス活動調査)

(注) H19・26の数値は、秋田県の商業（商業統計調査）、H24・28の数値は、経済センサス活動調査の数値となり、調査方法が異なるため、単純な比較はできない。

## 4 経済・雇用状況

### (1) 経済動向

業種別にみると、製造業では電子部品・デバイス・電子回路等で好調な動きが続いており、全体として堅調に推移している。

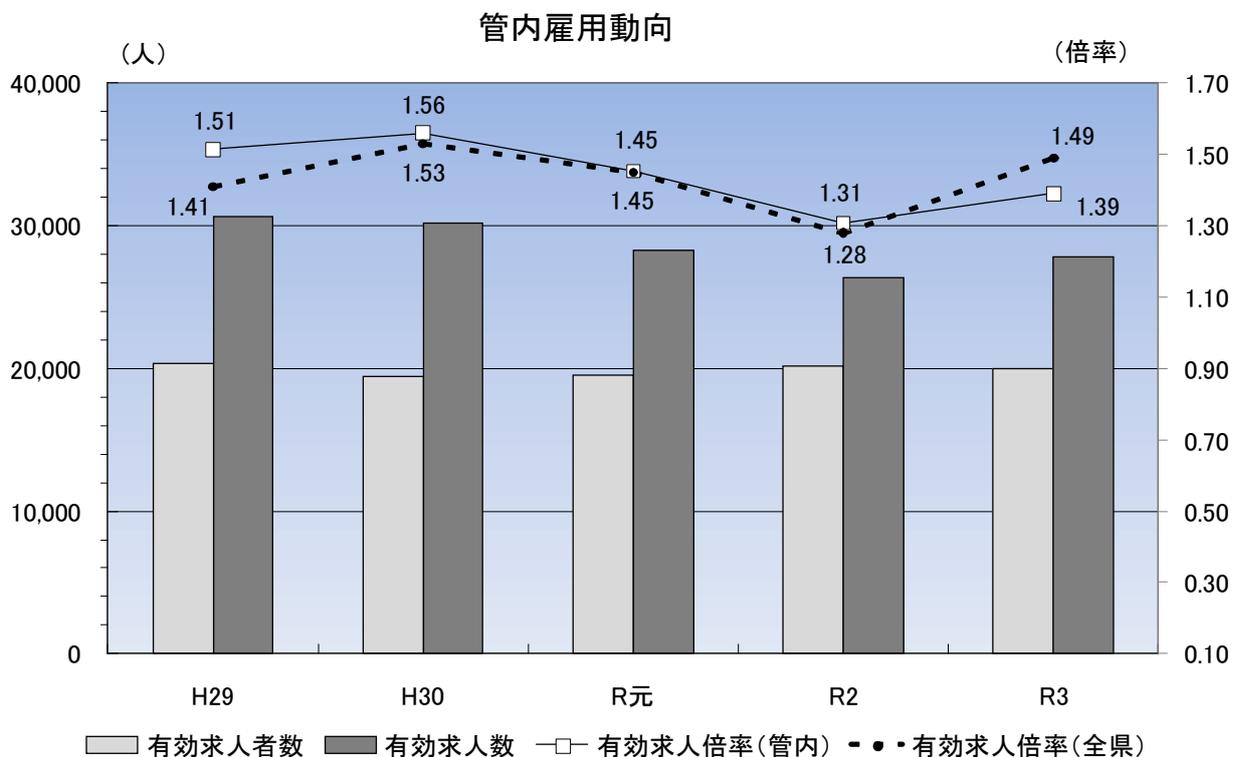
しかしながら、新型コロナウイルス感染症による影響が、宿泊業などで広がっており、依然として厳しい状況が続いている。

なお、小売業については全体として堅調に推移している。

### (2) 雇用動向

管内の年間平均有効求人倍率は、ここ数年、1倍を超え全県平均以上の値で推移していたが、令和3年度は県の平均を0.1ポイント下回る結果となった。

しかしながら、前年度比では0.08ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、雇用動向は改善の動きが見られている。



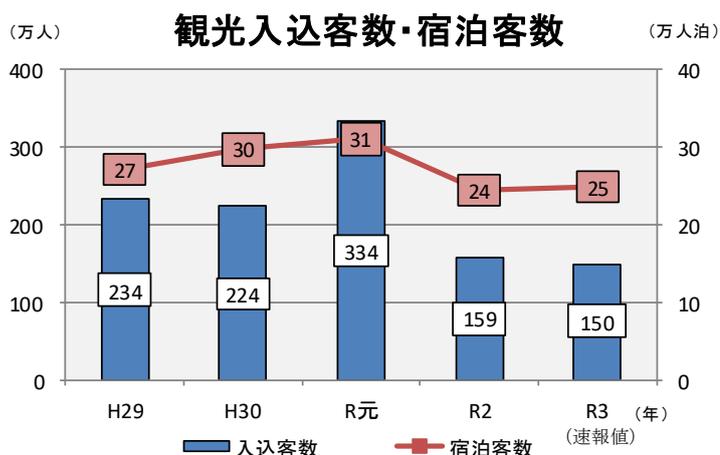
## 5 観光

管内の入込客数は、令和3年にあっては1,495,408人で、前年比で5.8%の減少となっている。

宿泊客数は249,967人泊で、前年比で2.1%の増加となっている。

令和3年は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、管内でもイベントの中止が相次ぎ、全体として集客は伸びなかったものの、伊

勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が令和3年7月27日にユネスコ世界文化遺産へ登録となり、地域への注目が集まっている。



(出典 秋田県観光統計、振興局調べ)

### ○主要観光地点及びイベント等の入込客数

(千人)

名称	R 2 年	R 3 年
秋田犬の里	97	108
道の駅ひない	103	99
大太鼓の里 ぶっさん館	144	134
森吉山阿仁スキー場	63	48
道の駅かみこあに	290	294

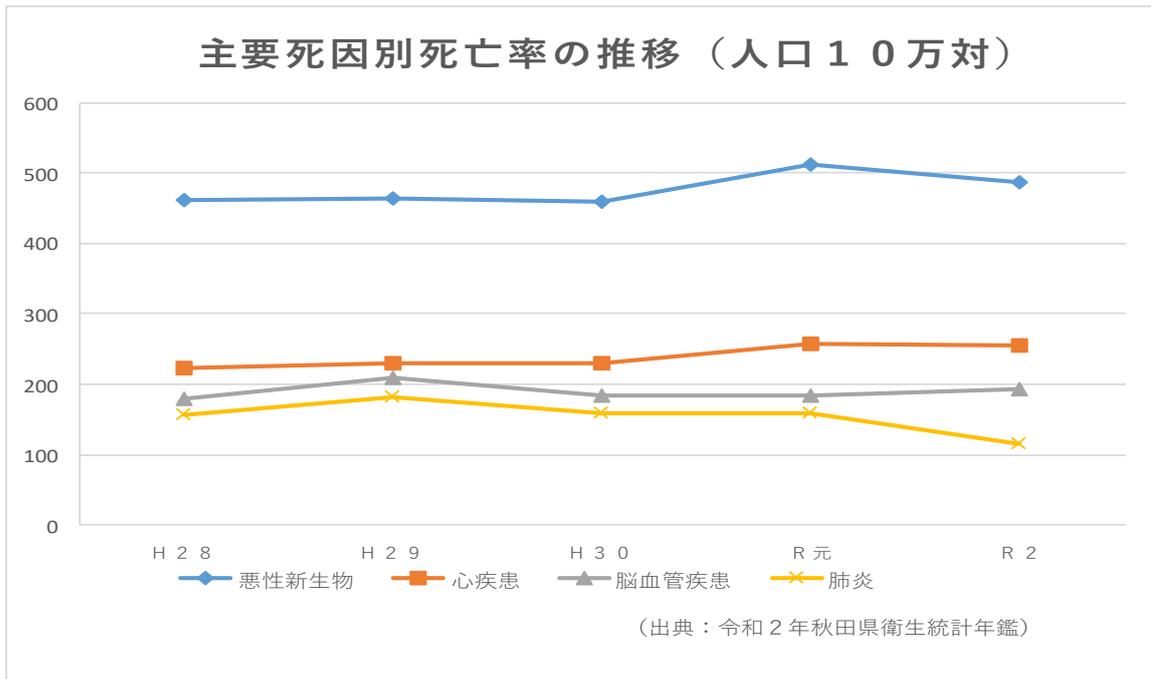
名称	R 2 年	R 3 年
大館アメッコ市	110	12
本場大館きりたんぼまつり	—	—
比内とりの市	21	中止
もちっこ市	17	中止

(出典 振興局調べ)

## 6 保健・医療・福祉

### (1) 主要死因別死亡率

令和2年における管内の死亡率（人口千対）は18.0で、全県の16.2に比べ1.8高くなっている。主要死因による死亡率（人口10万対）は、悪性新生物485.7、心疾患254.2、脳血管疾患193.1の順になっている。



## (2) 福祉対象者数の状況

令和4年3月31日現在の管内の介護認定者数は8,626人となっている。また、令和4年3月中の生活保護状況は944世帯、1,121人で前年同月より減少している。

（令和4年3月31日現在、単位：人、世帯）

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合 計
介護保険要介護（要支援）認定者数	5,607	2,795	224	8,626
精神障害者数	1,912	793	52	2,757
身体障害者数	3,713	1,696	161	5,570
知的障害児者数（※1）	796	357	34	1,187
母子世帯数（※2）	790	259	7	1,056
母子世帯の子どもの数（※2）	1,171	375	13	1,559
父子世帯数（※2）	119	45	7	171
父子世帯の子どもの数（※2）	173	65	13	251
生活保護世帯数（※3）	633	295	16	944
被保護人員（※3）	754	350	17	1,121

※1 令和3年3月31日現在    ※2 令和3年8月1日現在

※3 令和4年3月中に保護を受けた世帯数及び人員

## (3) 保健福祉施設の状況

令和4年4月1日現在の管内の保健福祉施設数は、養護老人ホーム2施設、特別養護老人ホーム15施設、介護老人保健施設6施設となっている。

(令和4年4月1日現在)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合計
養護老人ホーム	1	1	0	2
特別養護老人ホーム	9	5	1	15
介護老人保健施設	4	2	0	6

#### (4) 医療施設の状況等

令和4年4月1日現在の管内の医療施設数は、病院8施設、一般診療所79施設、歯科診療所37施設となっている。

(令和4年4月1日現在)

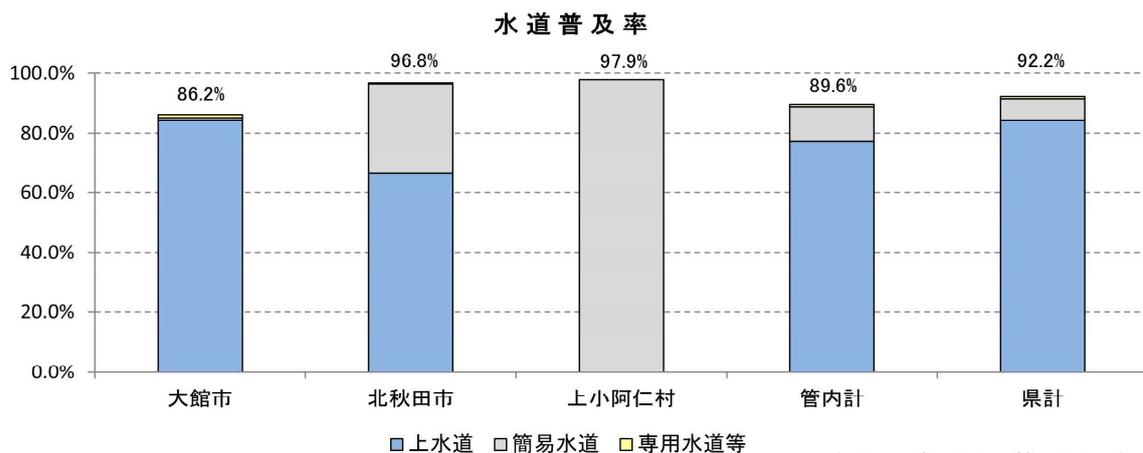
	病院		一般診療所(※)		歯科診療所
	施設数	病床数	施設数	病床数	
大館市	6	1,103	47	16	26
北秋田市	2	464	29	4	11
上小阿仁村	0	0	3	0	0
管内合計	8	1,567	79	20	37

※一般診療所の施設数は、社会福祉施設内に設置している診療所を含む。

## 7 生活環境

### (1) 水道普及率

令和3年3月31日現在の管内の水道普及率は89.6%で、全県の92.2%を2.6%下回っている。

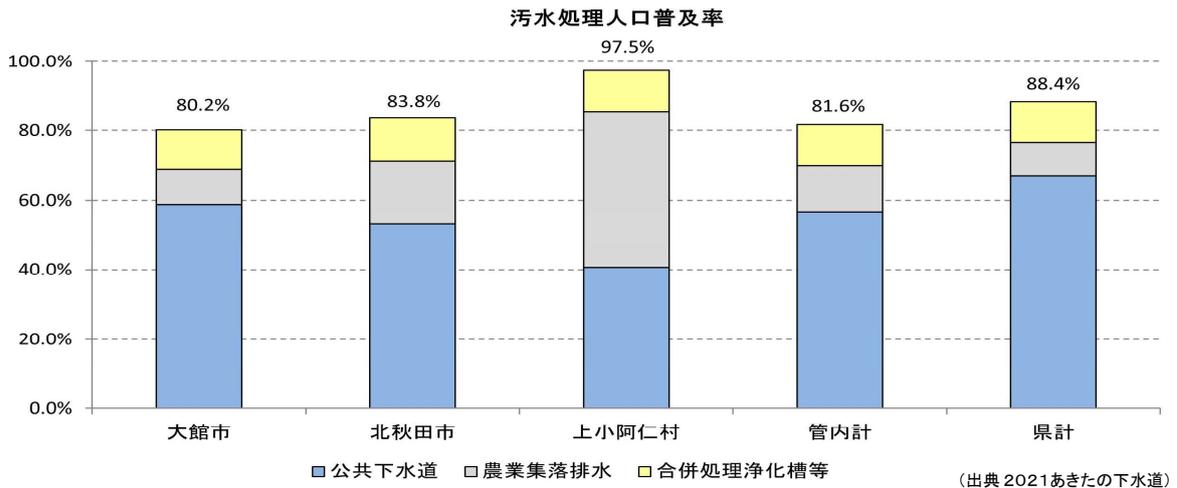


### (2) 汚水処理人口普及率

管内では、旧大館市、旧比内町、旧田代町が流域関連公共下水道事業、旧阿仁町、上小阿

仁村が特定環境保全公共下水道事業、旧鷹巣町、旧森吉町、旧合川町が単独公共下水道事業として昭和62年度～平成10年度までに事業着手している。現在は平成17年度の旧合川町を最後に全ての旧市町村が汚水処理を開始している。

管内の汚水処理人口普及率は、令和3年3月31日現在で81.6%と全県の88.4%を6.8%下回っており、一層の整備の促進が求められている。米代川流域下水道事業大館処理区は昭和61年度から事業着手され、平成4年度に処理を開始している。この流域下水道の幹線管渠延長の整備率は100%（2条管含む整備率85.0%）となっている。



## 8 社会基盤・交通

管内の交通状況について、高速道路網では、日本海沿岸東北自動車道・二井田真中IC～鷹巣IC間（平成28年10月開通）及び鷹巣IC～大館能代空港IC間（平成30年3月開通）に続き、令和2年12月には大館能代空港IC～蟹沢IC間が開通した。

また、蟹沢IC～二ツ井白神IC間についても、一部現道を活用したルートで整備が進められている。

一般道では、国管理の国道7号のほか、県管理の国道103号、国道105号、国道285号が各方面を結び、県道27路線が国道を補完してネットワークを形成している。整備が必要とされている区間も多く残っており、コスト縮減を図りながらその整備に努めている。

空路では、大館能代空港が平成10年に開港し、令和2年12月には利用者が300万人を突破した。同年5月、羽田発着枠政策コンテスト

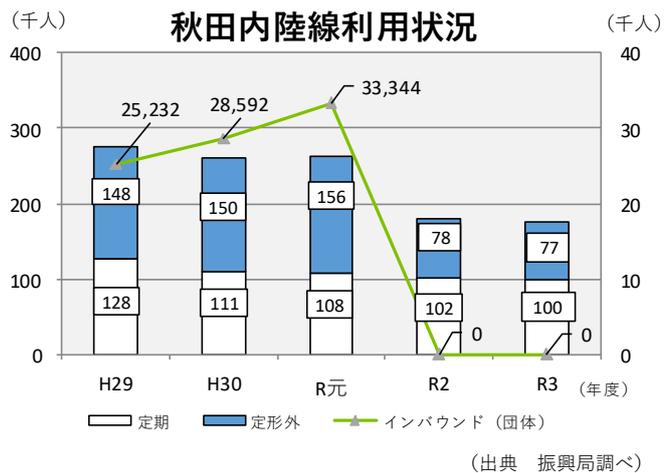
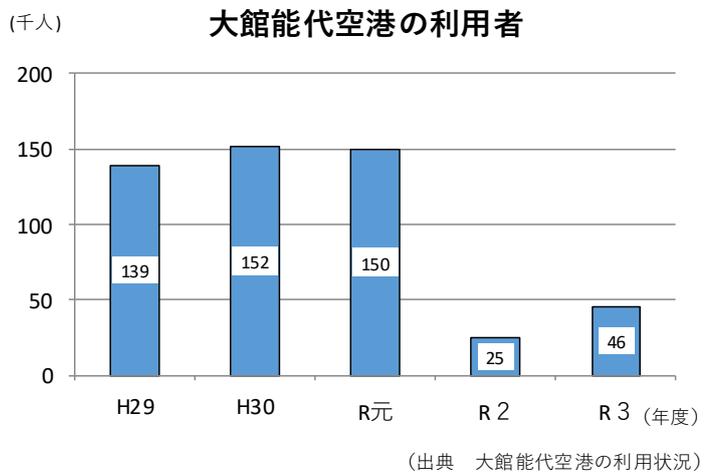
において、1便が増加され3往復化が決定された。令和4年4月28日から初の3往復化が実現したものの、その運行は限定的であり、今後継続的な定期便化が期待されている。

令和3年度の利用者数は、45,610人となっており、前年度比で85.9%の増加となったが、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の3割程度となっている。

鉄道は、JR奥羽本線、花輪線のほか、鷹巣と角館を結ぶ秋田内陸線が第三セクターで運行されている。

令和3年度の輸送人員は、177,192人であり、前年度との比較では、2,799人の減少となっている。

インバウンド団体の利用は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続いており、早期の回復が期待されている。



## (1) 道路

管内の高速道路は、平成28年10月に日本海沿岸東北自動車道・二井田真中IC～鷹巣IC間が開通したことにより、平成25年の大館市に続き、北秋田市が東北縦貫自動車道に接続された。平成30年3月に、鷹巣IC～大館能代空港IC間1.7kmが開通したことで、大館能代空港が東北縦貫自動車道に直結している。また、令和2年12月に大館能代空港IC～蟹沢IC間5.3kmが開通し、国道7号へのアクセスがより向上した。

現在、二ツ井今泉道路 (L=4.5km) 及び二ツ井白神IC～小繫IC間 (L=6.5km) については、

国施行による事業が進められている。

ニツ井白神IC (仮)	6.5km	(仮)小繋IC	4.5km	(仮)今泉IC	1.7km	蟹沢IC	1.7km	伊勢堂岱IC	3.6km	大館能代空港IC	1.7km	鷹巣IC	12.2km	二井田真中IC	7.2km	大館北IC	15.6km	小坂北IC	0.5km	小坂JCT
	事業中		事業中		一般道 供用中		供用中		供用中		供用中		供用中		供用中		供用中		供用中	

一般国道では、国直轄管理の国道7号が管内北部を東西から青森県境に北上し、県管理の国道103号が大館市から東西に鹿角地域と、国道105号が中央部を南北に大曲仙北地域と、国道285号が秋田市周辺地域と結ばれており、地域間交流・連携を支えるネットワークを形成している。また、主要地方道では鷹巣川井堂川線など9路線、一般県道18路線で地域内交通のネットワークを形成している。

このうち、国道105号の郡境部の大覚野峠区間5.7kmについては、令和3年3月より国直轄権限代行「大覚野峠防災」事業が進められている。

県管理道路の総延長は30路線、441.27kmでその改良率は77.5%、舗装率は95.2%となっており、県全体の改良率79.2%、舗装率97.3%に比べてどちらも北秋田管内が低くなっている。これらの路線は地域の発展や活性化に不可欠な路線であり、厳しい財政状況が続く中でコスト縮減に努めながら整備促進を図っている。

## (2) 河川

管内の河川は、国直轄管理の米代川（一部県管理8.3km）のほか、仙北市田沢湖町との境界の榎森に源を発し、北秋田市山間部を流れ能代市ニツ井町下田平地区で米代川に合流する阿仁川（管理区間延長60.7km）や阿仁川に流入する小又川、小阿仁川など41河川、管理延長457.924kmとなっている。このうち、築堤済区間が172.813km、無堤区間が143.605km、築堤不要区間が141.506kmで整備率は54.6%となっている。